

ビンロウ

学名：*Areca catechu* L. 科名：ヤシ科



ビンロウは東南アジアで自生または栽培されており、樹高約4〜10mの常緑高木です。幹に枝はなく、白い輪状の葉痕があります。葉は羽状複葉で、1〜2mの濃緑色で幹の先に集まっています。果実は6月ごろに熟し、長さ7cmほどのゆがんだ卵形で緑色から橙黄色となります。

ビンロウの種子のことを檳榔子（ビンロウジ）といい、ミミズやヒルに対する殺虫効果および条虫に対する駆虫効果があり、未熟種子の乾燥品を煎じて用いられます。健胃、消化作用もあり、消化不良や便秘、腹痛などにも用いられます。アルカロイドの一種である「アレコリン」には収れん作用という血管を収縮させる作用があるため、点眼薬の製造原料としても用いられています。

東南アジアでは、精神高揚の目的で用いられています。種子を石灰にまぶし、キンマ（コシヨウ科の植物）の葉で包んだものが興奮剤の咀嚼嗜好品として知られています。



実際に東南アジアで撮影されました。

生薬名	檳榔子（ビンロウジ） 局方生薬 大腹皮（ダイフクヒ）
薬用部位	種子、果実、果皮
薬効	殺虫、健胃、消化、収れん、駆虫作用
用途	消化不良、便秘、腹痛、条虫駆除などに用いられる。



カンアオイ

学名： *Asarum kooyanum* Makino var. *nipponicum* (F. Maekawa) Kitam. 科名：ウマノスズクサ科



こちらはカンアオイという植物です。日本、東アジア原産で、日本では本州の関東、中部地方に分布し、山地の樹下に生えています。約100種の品種が存在し、そのうちの半数程度が日本にあるとされています。

漢字で寒葵と書き、寒い冬にも枯れずに緑色の葉をつけ、その葉がアオイに似ていることが所以です。カンアオイの品種のひとつであるフタバアオイの葉は京都神社の祭礼に用いられ、徳川家の紋章「三葉葵」の加茂モデルになったと伝えられています。10〜2月に暗紫色の花をつけますが、写真の一番右側にある葉の根元にその花が写っています。

カンアオイの根および根茎は薬用部位であり、生薬名は土細辛です。ウスバサイシンの生薬名である細辛に似ていますが、ウスバサイシンの根や根茎ほどの香気がなく、代用にならないことから土細辛と呼ばれています。土細辛は細辛と比べて弱いですが、薬効があり、咳、発汗、胸痛などに用いられます。また、近年の研究で含有成分のひとつに血圧降下作用や睡眠促進作用を有すると報告されているため、今後の研究が期待されています。

生薬名	土細辛（ドサイシン）、杜衡（トコウ）
薬用部位	根茎、根
薬効	鎮咳、鎮静、解熱、鎮痛作用
用途	咳、発汗、胸痛などに用いる。



キダチアロエ

学名：*Aloe arborescens* Mill. 科名：ユリ科



アロエは皆さんにとっても馴染み深い植物だと思えます。こちらはキダチアロエです。日本では主にアロエベラ、キダチアロエ、ケープアロエが流通しています。キダチアロエは主に民間薬として用いられ、「医者いらず」と呼ばれていました。

皆さんが口にするアロエはアロエベラで、食用になります。ケープアロエは日本薬局方に収載されている生薬であるアロエの基原植物で、医薬品原料として用いられます。対して、キダチアロエは苦味が強く、食用に向きませんが、ケープアロエと同様に苦味健胃作用、子宮収縮作用があります。ケープアロエほどの強い作用はないため、医薬品にはなっていないが、健康維持のために広く利用されています。

現在では健康食品や化粧品として利用されています。健康食品では、お腹の調子を整える作用を目的に、化粧品としては保湿や肌荒れ、ニキビ予防などを目的に用いられています。医薬品でなくても過剰摂取は下痢の原因に、皮膚に塗り過ぎると肌荒れの原因になることがあるため、適量を用いるようにしましょう。

生薬名	アロエ
薬用部位	葉
薬効	苦味健胃、子宮収縮、抗癌、抗真菌作用
用途	下剤や健胃薬として民間薬的に用いられる。



ケープアロエ

学名：Aloe ferox Mill. 科名：ユリ科



この植物はケープアロエで、薬用になります。アロエは古くから薬用として使用され、古代エジプトの医学書「エーベルス・パピルス」には数々の処方方が記されています。この医学書が書かれたのは紀元前1,500年頃と言われているため、約3,500年前にすでに薬用植物として利用されていたこととなります。

アロエが日本に伝えられた時代については様々な説がありますが、ロカイという名で伝えられました。ヨーロッパで薬効が認められ、ドイツ薬局方に記載され、シルクロードを経て中国に伝わりました。中国ではロエと呼ばれ、漢方医学の父とされる李時珍の著書「本草綱目」にも記載されています。現在、ケープアロエは日本薬局方に記載されている生薬であるアロエの基原植物です。

生薬であるアロエは葉から抽出した液汁を乾燥して得られ、独特なにおいと強い苦味があります。「バルバロイン」を含み、緩下作用や子宮収縮作用を有しています。苦味健胃薬として消化不良、下剤として便秘などに用いられます。ただし、子宮収縮作用を有するため、妊娠時や月経の際には服用できません。

生薬名	アロエ（蘆薈（ロカイ））	局方生薬
薬用部位	葉から得た液汁	
薬効	緩下、子宮収縮作用	
用途	苦味健胃薬や下剤として用いられる。	

